

IV-4 中部

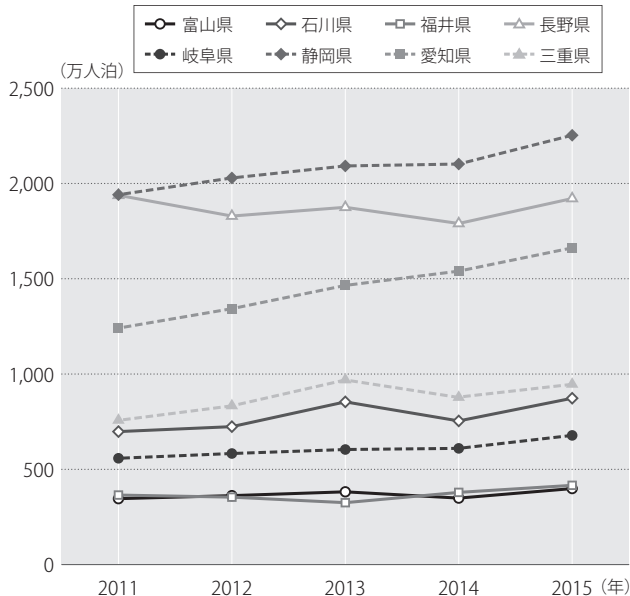
伊勢志摩サミットの開催決定に伴い地域内外の動きが活発化
都道府県別シティホテル客室稼働率で石川県が初の全国1位
インバウンドの著しい増加に伴い、各種連携が進展

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると15年1月～12月の中部各県の延べ宿泊者数については、中部全体では9,149万人泊となり、前年比8.9%増(745万人増)となった。全県で延べ宿泊者数が増加し、伸び率の高い順に、石川県(前年比15.7%増)、富山県(同14.4%増)、岐阜県(同11.1%増)、福井県(同9.9%増)、愛知県(同8.0%増)、三重県(同7.6%増)、長野県(同7.4%増)、静岡県(同7.2%増)であった(図IV-4-1)。

一方、外国人延べ宿泊者数については、中部全体では713万人泊となり、前年比68.6%増となった。いずれの県でも増加しており、特に静岡県(前年比121.2%増)、三重県(同119.4%増)は著しい増加を示している。静岡県の増加率は全国1位であった(図IV-4-2)。

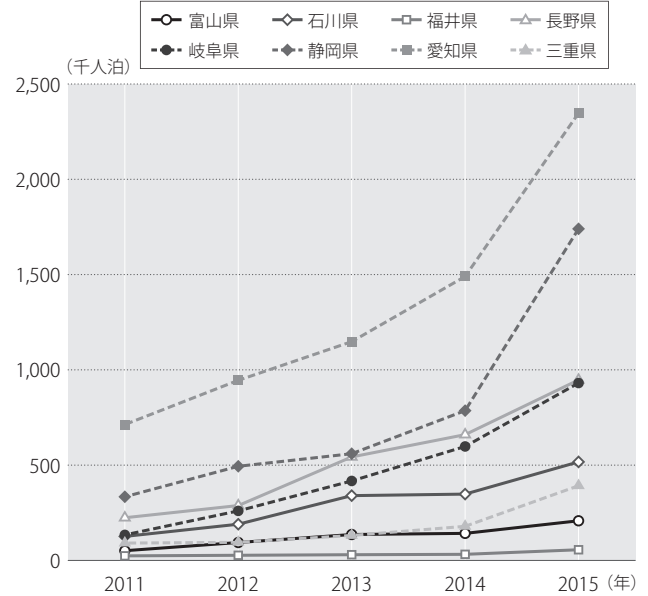
図IV-4-1 延べ宿泊者数の推移(中部)



県	2011	2012	2013	2014	2015
富山県	346	362	382	349	399
石川県	698	724	854	754	873
福井県	365	354	325	379	416
長野県	1,938	1,829	1,875	1,790	1,921
岐阜県	558	583	604	610	678
静岡県	1,941	2,029	2,092	2,102	2,253
愛知県	1,241	1,343	1,465	1,540	1,662
三重県	757	833	969	879	946

単位：万人泊
資料：観光庁「平成27年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-4-2 外国人延べ宿泊者数の推移(中部)



県	2011	2012	2013	2014	2015
富山県	51	94	136	142	208
石川県	126	190	340	348	517
福井県	24	27	30	32	56
長野県	224	288	543	660	947
岐阜県	134	260	417	598	931
静岡県	334	494	560	786	1,740
愛知県	713	945	1,148	1,490	2,347
三重県	91	95	131	179	392

単位：千人泊
資料：観光庁「平成27年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

宿泊者の国籍・地域別の構成については、富山県と石川県は、台湾、香港、中国が上位3地域であった。長野県は台湾(30%)、中国(16%)に次いで、豪州(9%)となっており、冬場のスキー場利用がうかがえる。福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県は中国が最も多く、特に静岡県では70%に上る他、愛知県(52%)と三重県(45%)でも約半数が中国からの来訪者となった。

(2) 観光地の主な動向

① 地方・都道府県レベル

● 北陸新幹線の開業効果

15年3月に長野駅と金沢駅が開通し、東京から金沢まで2時間28分で結ばれることになった。同年8月に観光庁が発表した「宿泊旅行統計調査」によると、6月の都道府県別のシティホテル客室稼働率で石川県が85.8%で大阪府と同率1位となった。08年の調査開始以来、同部門で石川県が全国1位となるのは初めてである。

● 官民連携による「地方創生」

福井県では、14年の舞鶴若狭自動車道全線開通、15年の北

陸新幹線金沢開業、中部縦貫自動車道福井北・松岡間開通などのインフラ整備、また、18年の「福井しあわせ元気国体」や20年の「東京オリンピック・パラリンピック」の開催について、国内外からの誘客の好機と捉えている。15年6月には、国内外での知名度が高く、県を代表する観光地である大本山永平寺門前の魅力を最大限に高める「永平寺門前の再構築プロジェクト」について、福井県、永平寺町、永平寺の3者が協力、連携して実施していくことを発表した。総事業費は3者合わせ22億7,000万円で、25年の同寺への来訪者数を14年比1.4倍の80万人まで回復させることを目指す。19年のプロジェクト完了に向けて、3者それぞれの事業を推進し、永平寺参拝者受け入れの再構築に努めていくとしている(表IV-4-1)。

同プロジェクトの基本計画策定には、12年11月の「まちづくり基本協定」以降、同寺の総合コンサルティングを行っている森ビル株式会社が当たっている。

表IV-4-1 永平寺門前の再生プロジェクトの事業内容

内容	事業主
旧参道との一体的な永平寺川の修景	福井県
1600年代の古地図に基づく旧参道の再生	永平寺町
ゲートウェイとなる観光案内所の整備	永平寺町
外国からの参拝にも対応できる宿泊施設の整備	大本山永平寺

資料：森ビル株式会社ホームページより

●GPS機能を活用した富士山登山者の動向調査

静岡県と山梨県では、富士山の登山道が混み合う時間帯や場所を把握するため、15年7月から8月にかけて、登山者にGPSを配付し、動向調査を実施した。世界文化遺産への登録に当たって、登山者の適正な人数管理が必要であり、その基礎データのため、協力した登山者から、下山寺にGPSを回収し、登山経路や各地点での滞留時間を分析した。

●静岡県グリーンツーリズムの支援拡大

静岡県は、農家民泊に対する支援として、基盤整備と地域連携の推進による中山間地域の活性化に取り組んでいる。14年から15年の取組成果として、複数施設でイベントのチケットを配付し地域内の回遊を促進した他、滞在型グリーンツーリズムの促進として、農家民泊の開業支援(1軒)、6次産業化専門家による運営支援(2軒)などを行った。

●「伊勢志摩サミット」の開催決定に伴う動き

15年6月5日に、主要国首脳会議の開催(16年5月)が志摩市に決定し、「伊勢志摩サミット」となることが発表された。同8日には県雇用経済部に「みえ伊勢志摩サミット推進局」(3課16名体制)が設置され、同24日には県警本部から2名、地元3市から4名の職員を受け入れ、局の体制を充実させた。さらには、同26日に庁内横断組織として「三重県伊勢志摩サミット推進本部」が設置された。加えて、同日には、サミットの成功を目指

し、県民と関係機関・団体、企業、市町や県が一丸となって、県全体の総力を結集させるべく官民一体の組織「伊勢志摩サミット三重県民会議」(議長：鈴木英敬 三重県知事)が設立された(表IV-4-2)。

また、同7月3日には、志摩市において、サミットの成功およびサミットを活かした地域づくりのために集い・考え・行動するための会議として、関係39団体を構成員とした「伊勢志摩サミット市民会議～光輝く志摩づくり会議～」(会長：大口秀和志摩市長)が設立された(表IV-4-3)。同13日には、鳥羽市において「伊勢志摩サミット鳥羽おもてなし会議」が設置された。

同8月には各国代表団や警備関係者に宿泊先を提供する「伊勢志摩サミット県民会議」の宿泊予約センターが宿泊関係者に向けて、スケジュールなどを踏まえた説明会を開催し、伊勢志摩地域を中心に宿泊業者約30名が出席した。説明会は同9月までの間に計10回開催された。

同10月には、鳥羽、志摩、伊勢、松阪市の旅館やホテルの料理人からなる鳥羽料理研究三重三料会が、鳥羽市の鳥羽ビューホテル花真珠で海外からの参加者に喜ばれる和食の勉強会を開催した。

表IV-4-2 伊勢志摩サミット三重県民会議の基本方針と取組一覧

基本方針①開催支援 ～万全の態勢で主要国首脳会議を成功させる～
<ul style="list-style-type: none"> ●伊勢志摩サミット宿泊予約センターの設置 ●弁当供給体制の整備 ●インフォメーション機能の整備 ●プレス用シャトルバスの運行(報道関係者向け最短ルートのご案内) ●住民懇話会 ●レセプションの開催 ●県産食材の利用促進 ●配偶者プログラム ●世界との絆づくり ●三重のおもてなしバッグ ●先遣隊歓迎夕食会 ●国際メディアセンター完成式及び完成記念祝典
基本方針②おもてなし ～歴史に育まれたあたたかい心で、世界からのお客様の記憶に残る「おもてなし」を行う～
<ul style="list-style-type: none"> ●伊勢志摩サミットフォーラムの開催 ●カウントダウンボードの設置 ●おもてなし大作戦 ●おもてなし向上研修
基本方針③明日へつなぐ ～子どもたちをはじめ県民が主役となって世界との交流を進め、三重の希望を明日へつなぐ～
<ul style="list-style-type: none"> ●ジュニア・サミットの開催 ●国際理解・国際交流プログラムの実施
基本方針④三重の発信 ～美しい自然、豊かな文化・伝統など、わたしたちが誇りに思う三重を発信する～
<ul style="list-style-type: none"> ●シンボルマークの制定 ●伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスター ●プレス等を活用した情報発信 ●三重情報館 ●情報誌の制作 ●三重県PR動画の制作・放映

資料：伊勢志摩サミット市民会議ホームページをもとに(公財)日本交通公社作成

表IV-4-3 伊勢志摩サミット市民会議の基本方針

基本方針①開催地にふさわしい環境の整備
市の全域が伊勢志摩国立公園に指定されていることを地域の人々があらためて認識し、美しい自然景観と、人の暮らしが自然と調和したまちの景観の素晴らしさを、来訪者に感じていただけるよう、クリーンアップ活動など市全体で環境の整備に取り組みます。
基本方針②観光地『志摩』の世界への発信
サミット開催をインバウンド（訪日外国人旅行者）誘客の絶好の機会と捉え、各種外国語による情報発信の強化や、飲食店、宿泊施設、観光スポット等を中心とした地域の受け入れ体制の整備を進め、各国からの来訪者に「志摩」を十分に感じていただけるようにするとともに、観光地「志摩」の世界への発信に取り組みます。
基本方針③サミット開催を契機とした志摩づくり
サミットは、「志摩」の知名度を向上させ、国内外の人々にその存在を知って頂く絶好の機会です。その機会と効果を一過性のものとしなため、市内のあらゆる事業者と市民が連携し、市内の英知、アイデア、技術を統合して、志摩の魅力を向上し、創造する取り組みを検討、推進します。
基本方針④伊勢志摩サミット三重県民会議との連携
伊勢志摩サミット三重県民会議が実施する事業の成功に向けて、積極的に連携し、必要な支援及び協力を行います。

資料：伊勢志摩サミット市民会議ホームページをもとに（公財）日本交通公社作成

②広域・市区町村レベル

●富士宮市がホテル誘致の補助金要件を緩和

富士宮市では、世界文化遺産登録された「富士山の景観と構成資産」に関連した観光客の増加を見据え、15年7月に、ホテル新設の支援補助制度における客室面積の要件を緩和した。それまで「シングル18平方メートル以上、その他の客室26平方メートル以上」としていたところを、「シングル9平方メートル以上、その他の客室13平方メートル以上」に緩和した。また、固定資産税の税率を1.4%から0.7%に軽減、リフォーム時の増改築、外国語表記の看板設置などの工事費の2分の1補助（最大100万円）、Wi-Fi整備（最大15万円）など、市内の宿泊施設の充実を図っている。

●「オール黒部」体制で観光戦略を推進

地域の約10軒からなる宇奈月温泉旅館協同組合と、黒部、宇奈月の各観光協会を母体とする黒部・宇奈月温泉観光局は、北陸新幹線開通をきっかけに「オール黒部」体制で観光戦略を推進すべく、15年4月より連携を強化し、これまで個別に展開してきた企画やPRについて、企画宣伝窓口を一本化し、一体となって取り組んだ。また、温泉街の商店、黒部市沿岸部の観光関係者なども参加する会議を設置し、広く意見交換することでアイデアやノウハウを集結し、誘客を図ることとした。

●和倉温泉の旅館が共通メニューを提供

和倉温泉では、15年11月～16年の2月末まで、和倉温泉旅館協同組合と和倉温泉観光協会の企画開発により、温泉内15軒の旅館の共通メニューとして、おむすび茶漬け「わくらむすび」を提供した。「わくらむすび」は、おむすびの上に豊かな能登の食材（能登カキ、能登牛、のどぐろ、こんか鯛、中島菜など）を用いた具材を乗せ、出汁をかけて食べる。各旅館は、「県

産米」「能登の食材」「能登の調味料で作った出汁」「ひと椀に和倉の料理人としての想いを乗せる」といった条件の中で、独自に工夫を凝らした「わくらむすび」を開発した（表IV-4-4）。

表IV-4-4 提供している「わくらむすび」の種類

旅館	提供している「わくらむすび」
多田屋	能登の贅沢むすび
天空の宿 大観荘	能登のきれい茶漬け
虹と海	イカゴロ茶漬け
加賀屋	河豚茶漬け
大正浪漫の宿 渡月庵	海藻茶漬け
旅亭 はまなす	のどぐろと中島菜の手まり茶漬け
味な宿 宝仙閣	海藻茶漬け
花ごよみ	椎茸の佃煮むすび
ゆけむりの宿 美湾荘	能登河豚真子と糠鯖のいしる茶漬け
あえの風	能登産古代米と海藻おむすび茶漬け ～地野菜の石焼味噌添え～
ホテル海望	田んぼの神様のお茶漬け
お宿 すず花	カワハギ糠漬け茶漬けと能登河豚の 葱味噌包み焼き
はまづる	能登の恵み天然ぶりと能登牡蠣の粕煮仕立て
宿守屋 寿苑	和倉温泉 蒸籠蒸しおむすび
日本の宿 のと楽	能登茶飯

資料：和倉温泉観光協会、和倉温泉旅館協同組合ホームページをもとに（公財）日本交通公社作成

●あわら温泉の老舗旅館が登録有形文化財に

あわら温泉の老舗旅館「べにや旅館」（1884年創業）が、15年8月に福井県内の温泉旅館としては初の登録有形文化財に指定された。現在の建物は、昭和31年の芦原温泉大火の後に再建されたもので、「本館」「中央館」「東館」の3棟からなる建物は入母屋造や切妻造の屋根を組み合わせた近代和風建築の典型。

●金沢市と長野市のホテルによる相互プロモーション

北陸新幹線開業2年目を迎え、15年7月に金沢市の8軒のシティホテルで構成される金沢ホテル懇話会と長野市ホテル旅館組合は、連携事業である「金沢・信州おちかづき街道旅行商品化相互プロモーション」の初会合を行った。同プロモーションでは、金沢または長野で1泊する広域観光プランの造成の他、「金沢・信州おちかづき街道 金沢・長野ホテルランチスタンプラリー」を展開し（金沢側8ホテル、長野側3ホテルが参画）、地域食材などを用いた料理を提供した。

●「白馬村観光地経営計画」を策定

白馬村は、16年3月「白馬村観光地経営計画」を策定し、観

光地として目指すべき姿や進むべき方向性、実施すべき施策・プロジェクトを明示するとともに、これらを着実に実行していくための体制・方策について、観光地を全体として経営する視点を踏まえた計画という形で取りまとめた。

●「真田丸大河ドラマ館」がオープン

16年1月17日、上田市の上田城跡公園に大河ドラマ『真田丸』にちなんだ「信州上田真田丸大河ドラマ館」がオープン（開館は17年1月15日まで）。撮影で使用するセットや衣装などの展示、ロケの様子や制作映像の上映など、『真田丸』の魅力を細かに紹介している。3月10日には真田家の家紋「六文銭」にちなんだ6万6,666人の入場者数を突破した。

●熱海市の宿泊施設が仏学生の労働研修を受け入れ

15年5月、熱海温泉ホテル旅館協同組合は、労働力不足の解消、海外への熱海のアピールを目的として、フランス、スリランカ、韓国の各交流・仲介組織関係者を招いた雇用講習会を初めて開催した。同組合からは採用担当者ら約20人が出席し、海外の人材供給の事情などの情報収集を行った。

同8月には、市内5つの旅館・ホテルで、フランス国立大学院で日本語を学ぶフランス人学生12人を労働研修生として受け入れた。研修生は、来日前の日本語集中特訓の後、研修先で旅館業全般の基本的な仕事に従事し、卒業の必修科目である企業研修として、仕事内容や文化、言葉を学んだ。

（清水雄一）